

# まるざー

石垣市の女性と男性のひろば



## 郷土の素材を生かした「ファッションショー」

「着てみて・使ってみて・私たちの手仕事」をテーマに第5回まるざーフェスティバルの「ファッションショー」が市民会館中ホールで開かれました。これには、八重山伝統の染織を今に生かした着物や普段着、フォーマルウエアなど多彩な作品をミス八重山や婦人会員、自らデザインした職工等がモデルになり、軽快な曲にあわせて登場し、大いに盛り上げました。

No.15

2002年 春季号

# 男女共同参画推進地域会議 in 石垣市

～語り合って・気づいて・変わる参画社会～

男女がともに個性と能力を発揮できる平等な社会づくりのためにはどうすればよいかについて考えようと、沖縄県、石垣市、いしがきプラン地域推進委員会共催でシンポジウムが去る2月8日に大川公民館で開催されました。

まず始めに大濱長照市長が「男女共同参画社会は常に追い求めていかなければならず、完成ということはない。男女が意識改革していくなかでお互い個性と能力が違う、そして人間として平等であるという深い理解が肝要」とあいさつしました。引き続き、伊藝美智子那覇市助役が「気づきから変革へ・これからの男女共同参画社会」をテーマに「これからの男女共同参画社会とはどういう社会か、生涯にわたって女性と男性が共に豊かに暮らせる男女共同参画社会の実現をめざすこと、参加ではなく参画するという立場でいろいろ実践することが大切と基調講演を行いました。その後、「語り合って・気づいて・変わる参画社会」をテーマにシンポジウムが開かれました。



コーディネーター：潮平 俊  
(市女性団体ネットワーク会議会長)

パネリスト：平地ますみ  
(竹富小中学校養護教諭)

：宮良政順  
(太陽の里介護支援専門員)

：前里和江  
(前フォーラム代表取締役)

助言者：伊藝美智子那覇市助役

## 平地さん

男女共同参画社会の基本目標の第1番目に男女平等意識の確立、男女平等親に基づいた教育の推進がうたわれている。学校現場、教育の場でどのような形で男女平等を実践しているかということだが、残念ながら石垣市では具体的な取り組みがなされていないということが現状。これまでいろいろな形で男女平等の意識啓発はなされていて、その必要性や意義などについて知識として十分に浸透してきていると思う。頭ではわかっているが慣習としてこれまですり込まれてきた意識が変わるまで、また行動が変革できるまで子どもたちは待てない。混合名簿をとおして子どもたちの意識が変わってくるのではないかと、そこに気づかせたいということで提起したい。本校では3年前から男女混合名簿をとっており、半数の生徒が混合名簿に対し良いという評価をしている。そのなかでも女子の方が差別につながる区別というはっきりした視点をもって考えるように考えた。そういう子どもたちの声を聞くとき、男女共同参画型社会の実現に向けて、

私たちも何か行動を起こさないといけないと感じている。男女を分けることの本当の意味はなんだろうか、「男の子だから、女の子だから」ということで無意識に差別につながっているということを受けて育った子どもたちはまたさらにその思いで子どもたちに接するという差別の再生産をなくすことが大事。それには努力が必要。教育の現場で早急に混合名簿を取り組む必要があると考える。教師や父母、地域の方々の意識も含めた取り組み、対策が求められている。男女平等親に基づいた教育の推進を単にプランに終わらせることなく具体的な行動、実践を始める時期にきている。





左から平地、宮良、前里さん

## 宮良さん

高齢化社会の進む中、老人介護が深刻な問題としてクローズアップされております。昔から親の面倒をみるのは長男の嫁があたり前、という固定的な役割分担の意識があります。男女共同参画社会が進む中、男性も積極的に親の介護に関わってほしいと思う。少子化も重なり、親の介護は誰がするのか、介護保険の施行に伴い高齢者が長年住み慣れた我が家で家族と楽しく生活が出来るように住宅支援サービスがあります。寝たきりや、身体に障害があったり、痴呆があったり、家族が無く一人暮らしだったり等、それぞれの状況、環境もちがいます。夫婦がお互いに生活するうえで男は仕事、女は家庭という時代ではないと思う。男性も積極的に家庭に入り、お互いが協力し、すばらしい老後を迎えたいものです。

現在、核家族が多く、子ども達がお年寄りと接する機械が少ないように思う。老人介護は、子どもの頃からの環境にも大きく影響します。家庭内の男女共同責任問題では男性は子育て、子どもの教育、両親の介護などを積極的に手伝い、共同支援を行っていくという意識改革も必要だと思う。男女がともに協力し、共生の良きパートナーとしてお互いを理解し、助け合うことができるよう高齢化社会を支援していきたいと考えています。

行政には市民の自己管理と健康づくり、生きがいづくりについての啓発をお願い致します。元気に自立した生活が営まれるよう私たちはその支援を受けながら自助、共助、公助のバランスを配慮しつつ、高齢者の住宅支援に頑張りたいと思います。

## 前里さん

私は現在不動産会社を経営しております。独学で宅建の資格を取りまして12年前今の会社を設立しました。会社設立当初は自分自身が女であるということから、男性社会の中でかなり肩を張って意識して仕事をしていたように思う。金融機関等の融資交渉や保証人になったりする時に、配偶者の後ろ盾を要求されたり・・・男性でないと不安だったのでしょうか。いまだに管理職は男性だという意識が多いようです。

「いしがきプラン」の基本目標に「多様な生き方を可能にする豊かで個性的なまちの実現」という項目があります。法制度も変わり、女性の就業形態も多様化しております。その中で配偶者がなく、あるいは様々な問題をかかえ、必死になって頑張っている女性も数多いと思います。幸い私は先輩や友人達に励ましを受け何とか1歩ずつ前に進むことができました。これからは社会で活躍していく後輩達のサポートの役目したいと思います。厳しい言い方ですが、こだわりつづけている



のも女性、足の引っ張り合いも女性の方が多いかなと思います。女性が内面から変えていかないと本当の意味での平等の社会は築けないのではないかと思います。隔たりのない異業種での女性のネットワークづくり、またすばらしい「いしがきプラン」を実効性のあるものにしていくためにも市民レベルでのチェック機関も必要ではないでしょうか。男女の差別がなく対等で平等な社会を構成する一人としてみんなが手をとって国際化社会に向けて共に前に進んでいけたらと思っております。みんなで語り合いながら気づいた人から少しづつ変わっていくことが大事だと思います。

# 男女共同参画講座2001

第2回

自分のための法律  
(離婚・親権・相続権等)

講師：琉球大学法文学部教授 稲葉 耶季



子供のいる夫婦の離婚を中心に協議、調停、裁判離婚について説明。  
未成年の子供がいる場合の親権者の決め方や慰謝料、養育費、子供の相続権などの問題について話した。

第3回

子育て・親育ては地域と共に  
(相談の現場から思うこと)

講師：市児童相談員 具志堅多恵子さん



石垣市で実際に発生した児童虐待、DV(ドメスティック・バイオレンス)の実例をあげ、地域の協力を求め解決すること、また八重山には被害者を保護する施設が一件もないという大きな問題を提起した。



第4回

パートタイム労働ガイダンス  
(知っておきたい法律、制度、保険等)

21世紀職業財団沖縄事務所長 伊是名絹代  
雇用管理アドバイザー 安田ひろみ



沖縄や八重山でのパートタイム雇用の厳しい現状を説明しながら、いきいきと働くための意識として、老後のことも視野に入れ、将来展望を持って働くことの必要性を強調。「家庭は男女の共同責任」と述べ家庭と両立する重要性も指摘。また、パートタイム労働法や保険、税金などの制度についても説明した。

第5回

ミニシンポジウム  
(男女共同参画社会の中で)

コーディネーター 小底 弘子さん  
パネリスト 江川三津枝さん 真謝悦子さん  
多宇久美子さん 高田浩子さん



男女それぞれの能力を生かしながら女性が社会進出をするためには、女性自身が志を高く持ちチャレンジすること、家庭の理解と協力が必要であることを強調した。また、学校と家庭でジェンダー(性的差異)をなくす教育を促し、男だから女だからという固定観念をとりはらうしつけの重要性も指摘。

## 第6回 基調講演・シンポジウム DVの現状と問題点 (沖縄県 DV 対策事業)

講師 : 弁護士 角田由紀子  
 コーディネーター : おきなわCAPセンター 中村淑子  
 パネリスト : 県立宮古病院産婦人科医 涌谷桐子  
 : 沖縄県女性相談所長 垣花みち子



DVを受けていた女性達の体験を軸にしたビデオ「ドスメティック・バイオレンスにどう取り組むか、親指のルールを打ち破って」(製作アメリカ)が上映された。その後角田弁護士による基調講演が行われ、現DVの現状、DV防止法、ストーカー防止法などについて話した。DVは男女の経済的格差、男性優位の社会構造が生み出している問題と指摘した。パネルディスカッションでは、県女性相談所への来所、相談、問い合わせの数が増加し被害も深刻になっている傾向が報告され、離島においては一時保護が今後の課題であると指摘。DVは男女差別が根底にある、社会から差別の構造をなくしていくために、行政は女性行政の強化と浸透が近道であると述べた。

## 第7回 海外女性セミナー報告 (オランダ・ドイツ11日間)

報告：沖縄県女性の翼団員 岡田啓子さん



オランダとドイツで女性の社会活動や労働、医療、福祉施設を11日間視察・研修。力強くしなやかに生きる多くの女性たちに出会い、社会を担う女性の大きな力を学んだことなどを話した。

## 閉講式

30人の受講生に大直長照市長より修了証が手渡された。終了生を代表して、山田サダさんは「とても有意義に毎回楽しく受講できた。私にも出来ることがたくさんあることを学んだ」と話した。下野澄さんは「女性自身が強くなると強くないといけない」と感想を述べた。



山田サダさん



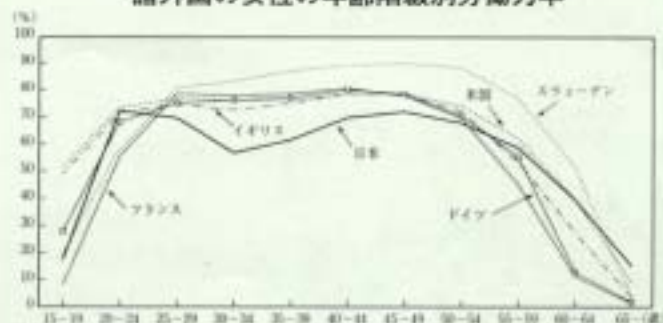
受講生を代表して終了証を受け取る 新城まりえさん

## 女性問題キーワード 9

### M字カーブ(M字型曲線)

年齢別にみた日本の女性の就業率が示す特有のパターンをいう。我が国の女性の年齢階級別の労働力率(労働力人口/15歳以上の人口)の形状は、欧米が逆J字カーブを描いているのとは異なりM字カーブを描いている。これは家庭の主婦の職場進出が進んだ昭和40年代からみられるわが国の女性労働率の特徴である。この形状はわが国の女性には出産、育児期にいったん就業を中断し、子育てが一段落したところで再就職するという就業パターンを持つ者が多いことを意味する。

諸外国の女性の年齢階級別労働力率



注：米国は、16-19歳  
 資料出所：米国、日本、ドイツは、ILO "Yearbook of Labour Statistics 2007"、スウェーデン、イギリス、フランスは、EU Eurostat "Labour Force Survey Result 2007"  
 平成13年度男女共同参画白書より

## おめでとうございます

沖縄県功労者表彰を受賞  
**大山トヨさん**

トヨさんは多年にわたり一貫して子弟の教育に情熱を傾けるとともに、地域の婦人会活動を通じて男女共同参画社会実現のため石垣市行動計画「いしがきプラン」の策定に携わってきました。また、諸施策の推進に尽力したほか裁判所における調停業務で人権及び男女平等の確立に多大な貢献をされたことに対し一般篤行の部で沖縄県功労者表彰を受賞されました。

トヨさんは清廉潔白で慈愛に満ちた穏やかな人柄でいて、目的を達成するためにはねばり強い努力と研鑽を重ね理論的に行動する方です。86歳の現在、八重山「女性の翼」の会会長を務め、福沢諭吉の「天は人の上に人をつくらず、人の下に人をつくらず」の言葉が大好きで、女性の地位向上と後輩の育成に尽力されております。「この賞は八重山の女性のみなさんと教え子と共にいただいたと思っております。今後も世界の平和・平等・発展に貢献していきたい」とお話しされていました。



## 「女性の翼」研修報告

「オランダ・ドイツ視察研修」  
 多様性を認め合う大人の社会に感動

岡田啓子

のどかな田園風景とおとぎ話に出てくるような可愛い家や建物に心身ともに癒されながら、現地で活躍する両国の女性たちの情熱に感動する11日間の研修の旅でした。

ヨーロッパ二都市の施設や住宅地・観光地は自然との共生を考えてか、その美しさを失わないように道路には電柱や電線、自動販売機がなく、広告もほとんど目に入らず、自然との調和をみださない配慮がいたるところで見られました。

教育制度においては、公私立とも大学までの授業料は全額国が補助



し、入学試験が無い日本のように塾に通う必要は無く、子ども達は実にのびのびと自分の時間を有意義に過ごしているようです。教育の基本理念として「知識の量ではなく自分で考えて表現する力をめざす教育」を掲げているとのことでした。また、高齢者ホームの充実した内容にも感動しました。施設は入居者を孤立させないため、町の中心地にたてられ、ほとんどが個室で夫婦の一人が認定を受けると配偶者も一緒に入居できることになっています。自宅とほとんど変わらない空間で生活し、好みの家具や花々に囲まれて満



足そうな笑みから、個人の尊厳と豊かな老後を保障する社会を目のあたりにすることが出来ました。

今回の海外研修を通して多民族国家となった両国から多様性の尊重とお互いの違いを認め合う大人の社会を学ぶ機会にもなりました。

最後に、この研修に携わった多くの方々に感謝すると同時に、自分出来ることから地域に活かしていきたいと思いません。



# 第5回 まるざーフェスティバル開催

～かがやき 響き合う やいまの女たち～

「平和で豊かな社会を創り出すための女性を中心とした諸団体やグループがその活動を一堂に展開してアピールし、情報を共有するとともにネットワークの輪をひろげ、相互にエンパワーメントすること」を目的に第5回まるざーフェスティバルが平成13年10月20日、21日の2日間、市民会館中ホールで開催されました。ワークショップの部では各女性団体がテーマを掲げ日頃の活動の様子などをパネルや舞台上で紹介。また、「八重山の伝統染織を今に生かして」と題して織物に携わる四団体によるファッションショーが華々しく展開されました。



オープニングセレモニー  
(石垣市民踊愛好会)



踊りの輪は人の和  
(石垣市民踊愛好会)



開会のあいさつ  
瀬平 俊  
「まるざーフェスティバル実行委員長」



はじめての絵本—0歳からの出会い  
(石垣市文庫連絡協議会)



活動の紹介 (八高P連母親委員会)



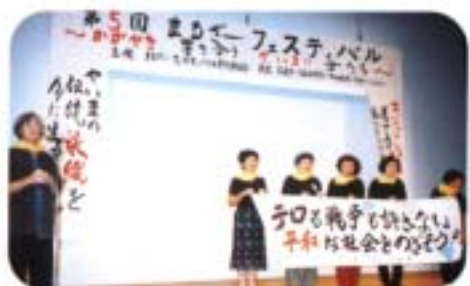
婦人会活動のあり方を考える  
(八重山地区婦人連合会)



環境美化とゴミ減量  
(石垣市婦人連合会)



保育園児によるおゆうぎ  
(石垣市保育向上推進協議会)



「平和」を考える  
(みーどっんの会石垣)



有害紫外線って何?  
(コープおきなわ八重山ブロック)



参加者のみなさん



リサイクル! 捨てないで生かそう  
(石垣市商工会女性部)



更正保護、地域ぐるみの支援  
(八重山地区更正保護婦人会)

## ワーク シヨツプ



お年寄りに心の安らぎを、  
子ども達に島の文化を！  
(くにぶん木の会)



鹿油利用石鹸の紹介 (若夏会)



ハーブのある暮らし  
(ハーブシンフォニー八重山)



安心、安全な食へのこだわりで  
地産地消を (JA八重山郡女性部)

# ファッションショー

着てみて 使ってみて わたしたちの手仕事  
～八重山伝統の染織を今に生かして～



伝統の素材(綿、芭蕉、麻、絹)の新しい生かし方  
(いつよ会)



上等ネー



伝統織物を若い世代へ  
(縁ぐるまの会)



八重山上布とミンサーの移り変わり  
(石垣市織物事業協同組合)



婦人会員もモデルに！



真南風ブランドの紹介  
(紅露工房)

### 表紙

まるざーは、八重山方言で円座を意味する。老若男女の別なく円座になって情報を交換し未来を語り合うことを象徴しています。題字は前石垣市企画室副主幹兼女性行政係長の宮良和子さん、現在は石垣婦人会長、八重婦連の企画部を担当し地域で活躍しておられます。